



新型コロナウイルスワクチン集団接種訓練を実施

荒川区は3月25日午後2時から、サンパール荒川にてワクチン集団接種の訓練を実施しました。当日は区職員、運営するJTBスタッフ、医師、看護師、町会のみなさんのご協力のもと、訓練が行われました。

新型コロナウイルスワクチンが接種可能となった際に、安全かつ確実に、そして可能な限り速やかに、希望する区民がワクチン接種を受けられるように備えます。

訓練の概要

- (1) ワクチン受け渡し訓練
- (2) 接種訓練

15名の被接種者(区職員と町会)が本番同様の手順で訓練をしました。区職員は接種をするに当たって、本人確認書類を忘れる方やアナフィラキシーを起こす方、意識を失う方などの役をしました。

- ① 検温・受付
- ② 予診票の記入確認とトリアージ
- ③ 予診の順番待ち
- ④ 予診
- ⑤ 接種
- ⑥ 経過観察
- ⑦ 接種済証の交付



- (3) 救命救急訓練

医師、看護師には、発生する症状の想定、実施すべき対応方法は事前に伝えてあるが、どのタイミングで起こるかは伝えてない中で対応を行いました。



訓練当日の様子

トリアージによる事前のリスク評価を行うとともに高齢者の移動を極力減らし、アナフィラキシーなどの副反応が起こった際の転倒事故を防ぐために、「座ったまま接種」方式を採用し、医師と看護師が巡回して接種及び経過観察を行う、区民の安全・安心を最優先した荒川区独自の方法にて実施しました。

被接種者の動き、スタッフの手順、被接種者の容態が急変した際の医師や看護師の対応などの確認・検証を行ったほか、予診票には接種の日付だけでなく接種の時間等の記載も設け、接種者一人一人の接種後の経過観察を行えるよう工夫を行いました。

訓練を済ませ、会場・医師・看護師などスタッフの手配も整い…あとはワクチンの入荷を待つのみです。医療従事者のワクチン接種も進んでいないようです。4月26日の週に1箱入荷するとの報道がありましたが、その後の入荷予定は未定だそうです。わかり次第お知らせします。

【問合せ】

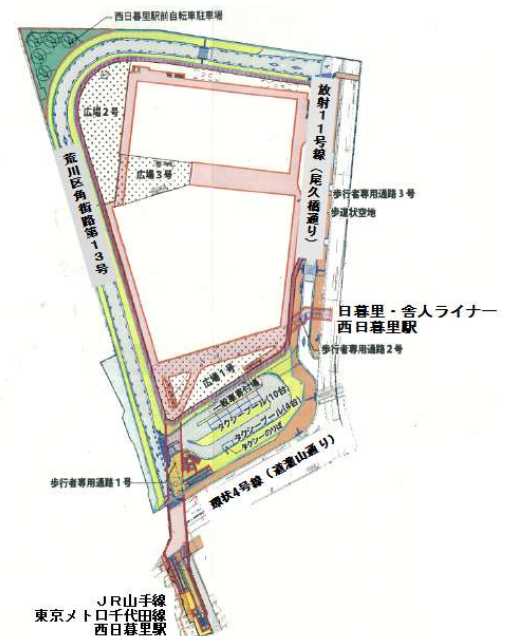
新型コロナワクチン接種コールセンター 0120-027-030

西日暮里駅前再開発計画 都計審で答申決定

3月26日金曜日、第52回荒川区都市計画審議会が開かれました。西日暮里駅前地区再開発計画について質疑と意見を述べたのは日本共産党を含め区議会議員4名、区民4名でした。

20名の委員中出席17名で、賛成16反対1(日本共産党だけ)で答申が決定されました。

この後、東京都都市計画審議会(5月18日予定)で決定部分の答申がされると、事業は【本組合設立⇒権利変換事業認可⇒工事】具体的に進む予定です。



リニューアル工事中のあらかわ遊園を視察

リニューアル中のあらかわ遊園では、観覧車が3月11日(東日本大震災の日)等でライトアップされ、地域やSNSで話題になっています。3月26日、文教・子育て支援委員会の視察が行われました。



新しいメリーゴーラウンドには馬や馬車以外にも、パンダや恐竜、イルカもあり、賑やかで子どもたちに喜ばれそうです。大観覧車はカラフル+透明(足元も透明!)のゴンドラで1周約9分でまわります。車いすのままでも観覧車を楽しめるようになりました。新しいウォーターシューティングも楽しそうです。いもむしジェットコースターは残っています。視察日はちょうど桜が見ごろでした。

来年春のリニューアルオープンが待ち遠しいですね。

閉鎖型喫煙所を設置

プール管理棟脇に閉鎖型喫煙所(左下画像)が設置されました。移動可能なトレーラー型で4月1日から利用できます。本体価格は660万円、すべて東京都の補助金で賄われます。ランニングコストは1年190万円程度と見込んでいます。これに伴い付近の吸殻入れ(屋外喫煙所)は撤去されます。

予算特別委員会中、あらかわ遊園は子ども家庭部の所管であることから、全面禁煙にすべきではないかと要望しましたが、喫煙者への配慮から設置されました。

閉鎖型喫煙所付近の桜が3本伐採されました。地中に鉛とその化合物が基準値を超えて検出されたため、土を入れ替えたそうです。昔この地にキングレコードの工場があったそうです。



スロープを使い、車いすのまま観覧車のゴンドラに乗れます



LGBTQ は「いない」のではなく「見えていない」だけ

「同性婚否認は違憲」とする札幌地裁の判決(3月17日)が大きな話題になりました。

荒川区議会に、LGBT当事者からパートナーシップの認証制度などを求める陳情が出されています。総務企画委員会では、渋谷区の担当課長を招いて学習会を開きました。

渋谷区の任期付き職員で、男女平等・ダイバーシティ推進担当課長として、自ら講演を開催するなど、男女平等と多様性社会の推進に取り組んでいらっしゃいます。

基礎知識から入り、渋谷区の取り組み、当事者を取り巻く状況を講演いただいた後、委員からも積極的な質疑がありました。自治体の最初の一步は、安心の接点づくりと見える化。世代間の意識差と、地域社会の「慣れ」不可視化にどう抗うかが大きな課題です。

先日、当事者の方からお話を伺いました。パートナーが入院した時、学生生活で、職場で、日々の暮らしで相当のストレスや苦勞があるようです。誰もが自分らしく生き、大切にされる荒川区となるよう私もがんばります。

LGBTQとは

Lesbian(レズビアン、女性同性愛者)、Gay(ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual(バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender(トランスジェンダー、性別越境者)、Queer または Questioning(クアイまたはクエスチョニング、決めたくない、迷っている、決められない)の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の総称のひとつです。

電通ダイバーシティラボの2018年の調べでは、日本におけるLGBTQの割合が人口の8.9%存在する(他調査は5~10%の幅がある)と言われています。荒川区の人口で単純に計算すれば、19,000人ほどの当事者がいることになります。

東京レインボープライド(TRP)とは

『東京レインボープライド2021』は、LGBTをはじめとするセクシュアル・マイノリティの存在を社会に広め、「性」と「生」の多様性を祝福するイベントで、特定非営利活動法人 東京レインボープライドが開催しています。昨年に引き続き、今年もオンラインでの開催となります。荒川区にも後援申請が来ていますが、区は消極的な姿勢を示しています。

定例☆法律相談
何でも・お気軽にどうぞ
4月16日(金) 18時半~20時
北村あや子事務所



東京レインボープライド2021

4.24 SAT & 4.25 SUN

プライドウィーク: 4/24(土)~5/5(水・祝)